

第2次佐倉市地域公共交通網形成計画(概要版)

【将来像・基本方針】 まちの骨格となる公共交通網が広がる都市 佐倉

【計画の目的】 人口減少や少子高齢化といった社会的背景を踏まえた将来にわたり持続可能な公共交通網の構築

【計画期間】 2020 年度～2024 年度

【計画区域】 佐倉市全域

1. 公共交通等の役割、現状、ニーズ

● 公共交通の役割

- (1) 日常生活に必要な移動手段
- (2) 観光振興
- (3) 高齢者等の健康増進への寄与
- (4) 渋滞緩和・環境負荷の低減

● 地域の現状

- ・コンパクトな都市構造
- ・少子高齢化の進行
- ・人口減少の進行
- ・自家用車への依存
- ・道路混雑

● 交通手段の現状

- ・利用者の停滞、減少
- ・公共交通以外の移動サービスの存在
- ・交通空白地域の存在
- ・乗務員不足
- ・概ね居住地を網羅している

● 公共交通のニーズ

○公共交通全般に関すること

- ・もっとPRをするべき
- ・公共交通以外の移動手段の確保

○バスに関すること

- ・情報提供の充実
- ・バスマップの充実
- ・定時制の確保
- ・停留所の環境整備
- ・公共施設へのアクセス

○タクシーに関すること

- ・配車サービスの導入
- ・料金の分かりやすさ
- ・定額運賃制タクシーの導入
- ・タクシー補助の導入

2. 公共交通を 取り巻く重点課題

交通空白地域の存在
一団のまとまりのある交通空白地域に住む住民の移動手段の確保を検討する必要があります。

高齢者等の移動手段
高齢者をはじめ、子どもや妊産婦の方でも自家用車がなくても生活できる環境の整備が求められています。

拠点へのアクセス
高齢者も出歩きやすい快適な生活環境や、若年者や来訪者にも魅力的なまちを実現することが必要です。

利用者の減少
公共交通利用者が横ばいにある中で、人口減少により、利用者が減少することが予想されます。

3. 目標

目標1
様々な特性に応じた移動手段の確保

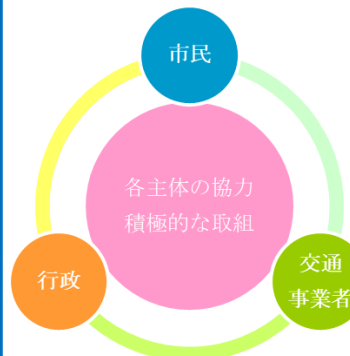
地域や人の特性に応じた移動サービスを検討します。

目標2
公共交通を利用したくなる環境創出

より多くの方が公共交通を利用する環境の整備を行います。

推進体制

- 「市民」・「交通事業者」
- ・「行政」の3者の協働



4. 目標達成のための実施事業

目標1

- 事業1 交通空白地域の解消・拡大の防止
 - ・交通空白地域の解消（飯重・羽鳥・寺崎エリア）
 - ・既存民間路線等の維持・拡大
- 事業2 高齢者等の外出支援の検討
 - ・要介護者や障害者等を対象とした既存の福祉施策の維持
 - ・高齢者や子ども等の外出支援の検討
- 事業3 まちづくりと連携したネットワークの構築
 - ・京成佐倉～JR佐倉間の周遊性の向上
- 事業4 新たなモビリティサービスの調査・研究
 - ・超小型モビリティや自動運転、グリーンスローモビリティ、MaaSの導入調査

目標2

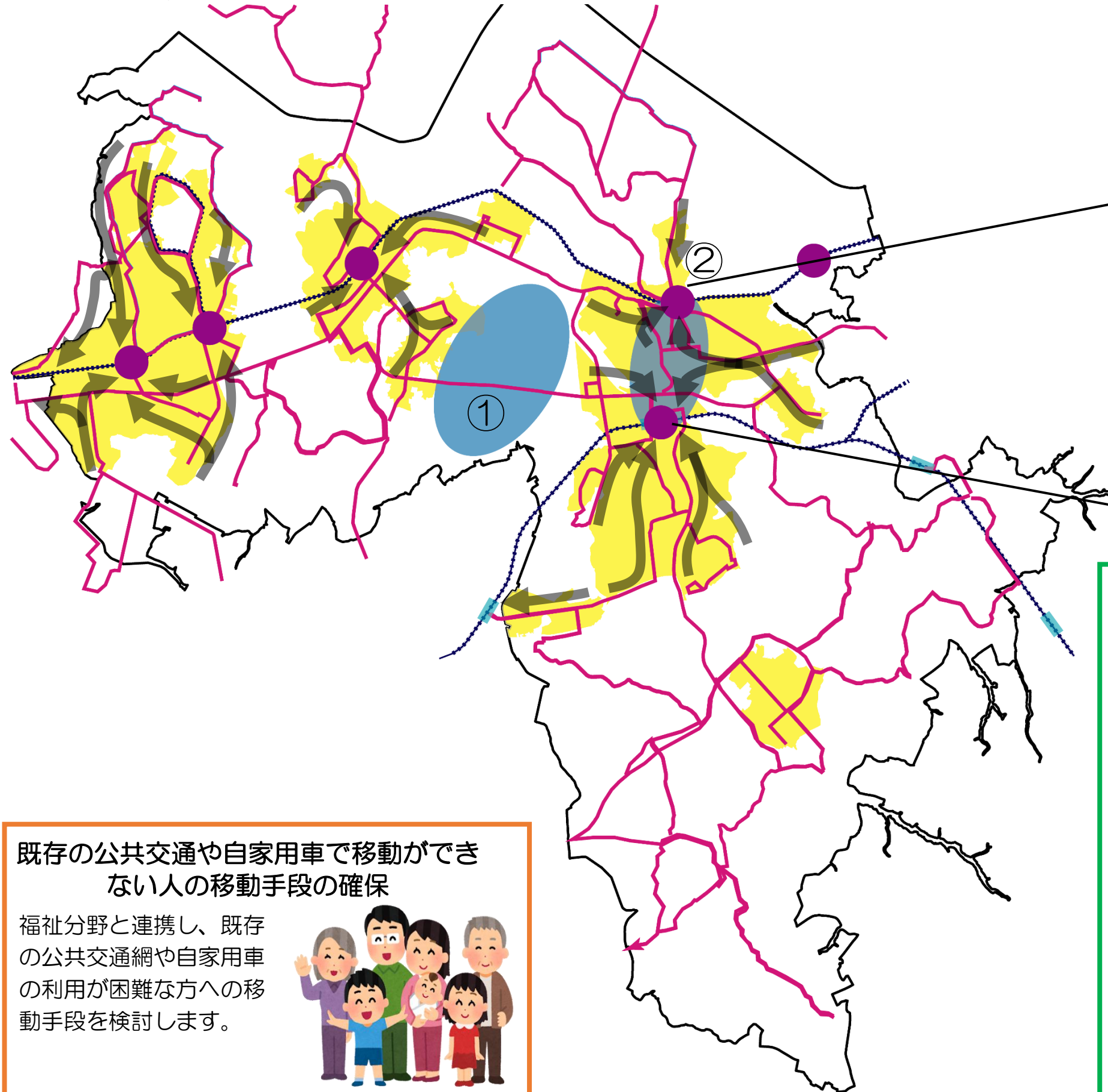
- 事業5 利用促進の実施
 - ・モビリティマネジメントの実施
 - ・運行に関する情報提供の充実
 - ・割引運賃・ダイヤ・バス停留所等の検討
 - ・タクシーの利用促進
- 事業6 公共交通の利用環境の整備
 - ・各駅自転車駐輪場の維持・管理
 - ・ベンチ・上屋などの待合環境の整備
 - ・公共交通機関のバリアフリー化等の支援
 - ・交通渋滞、舗装補修、歩道整備

目標1、2共通

- 事業7 市民・交通事業者の連携強化
 - ・市民・交通事業者の意見収集
 - ・路線数・利用者数のモニタリング
 - ・地域公共交通会議の開催

第2次佐倉市地域公共交通網形成計画(概要版)

7. 計画の将来像



公共交通の整備

- ①飯重・羽鳥・寺崎エリアの空白地域の解消
- 1次計画で残った、空白地域の移動手段を確保します
- ②京成佐倉駅～JR佐倉駅間の周遊性の向上
- 公共施設や観光施設を結びます

《参考：京成佐倉駅～JR佐倉駅の周遊性》



公共交通を利用しやすい環境の整備

【既存公共交通】

- ・モビリティマネジメントの実施
- ・運行に関する情報提供の充実
- ・割引運賃・ダイヤ・バス停留所等の検討
- ・タクシーの利用促進

既存
バス路線

【● 鉄道駅を中心】

- ・各駅自転車駐輪場の維持・管理
- ・ベンチ・上屋などの待合環境の整備
- ・公共交通機関のバリアフリー化等の支援



既存の公共交通や自家用車で移動ができない人の移動手段の確保

福祉分野と連携し、既存の公共交通網や自家用車の利用が困難な方への移動手段を検討します。

